

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	環境開発株式会社 グループホームのぞみの家 カナリヤ館	評価実施年月日	平成20年10月6日
評価実施構成員氏名	環境開発株式会社 グループホームのぞみの家 取締役 ホーム長 管理者 カエデ館計画作成担当者 カナリヤ館計画作成担当者 看護師	西 出 達 司 梶 山 浩 一 新 谷 里 恵 伊 藤 良 子 瀧 口 裕 司 堀 繁 義	
記録者氏名	新谷里恵	記録年月日	平成20年10月6日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>利用者の人格、生活歴などを尊重しサービスをしていくよう、理念を作っている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>週1回理念を唱和し、利用者へも理念に沿うように心掛けて接している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時、利用者や家族には利用契約書、重要事項説明書で説明している。ホーム見学者にも理念を説明し理解して頂き、地域の方へ広報誌を配布時にも説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>管理者、職員は近所の方への挨拶を励行するよう心掛け、散歩等で利用者とお出掛けして近所の方と会う時には、ホームへ来訪して頂けるよう話したりしている。近所の方から野菜や山菜等をもらったりし、ホームからは餅を届けたりしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>近郊の小学校の運動会や学習発表会を観覧したり、新入学生用の花を作って届けたりしている。市内の祭り等イベントに参加したり、ボランティアの訪問により交流を深めたり、地元の商工会にも加入している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>研修会、認知症家族の会に参加することで、情報を提供したり取り入れたりしている。運営推進会議出席者やホーム見学者からも生活に役立つことがないか意見を聞くようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価については全職員に説明し理解をしてもらい、評価結果も全職員に報告し改善するようにしている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	会議では利用者及びサービス状況、外部評価での取り組み等を報告し、出席者からは活発に意見交換をして頂き、活かせる意見等を全職員に周知しサービス向上に役立てている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者とは適宜行き来して意見交換等を行っている。また地域ケア会議、認知症家族の会、自治体病院での地域で支える認知症の会等に参加している。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者から職員へミーティングの中で勉強会を開き理解を深めている。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングで関連法について学んでおり、日頃からも虐待が起こらないよう全職員が意識しケアするよう心掛けている。毎月少なくとも1回は利用者の身体観察を入浴時に管理者クラスが行い、虐待がないか確認している。また、身体拘束ゼロ推進会議を行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族へは分かり易く説明し、充分理解及び納得して頂いた上で、契約、解約をしている。解約の場合は転居先への依頼、訪問をし、その後の生活に不安のないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が意見、不満等を誰にでも言える雰囲気作りに努めており、言われた事については、管理者、職員に周知し、その後の運営に反映させるようにしている。</p>	○	<p>利用者からの意見、不満などがあれば、解決までの経緯を含めて運営推進会議で報告し、出席者からも意見などを出してもらい運営に反映させていく。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族へ毎月1回、介護日誌やお便り等を送付して様子をお知らせしている。また、家族来訪時にも話しており、状態変化があれば電話連絡をしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族へ毎月1回送付している介護日誌やお便りの中に、意見、不満等を書く用紙も同封し、些細な事でも記入して頂けるようにしている。また、家族来訪時にも、意見、不満等があれば聞き、管理者、職員へ周知し運営に反映させている。</p>	○	<p>家族からの意見、不満などがあれば、解決までの経緯を含めて運営推進会議で報告し、出席者からも意見などを出してもらい運営に反映させていく。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎日の申し送り時や毎月のスタッフ会議で意見等を出してもらい、内容を話し合ったうえで運営に反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>事前に分かっている事項は勤務表作成時に組み入れており、その後の状況変化時はスタッフからの意見等を聞きながら勤務変更をかけている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者と馴染みの関係が続けられるよう、職員への教育をするだけでなく、職員が抱える不安や疑問などを管理者及び運営者へ気軽に話せる雰囲気作りに努めている。新しく入ってきた職員には同一職員が数週間はペアで勤務し、影響の出ないようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>日々の業務において向上心を持ち働くよう指導している。また、勤務内容及び経験等に基づき外部研修へ参加させ職員を育成している。研修後には報告書を全職員が回覧し知識を習得している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域ケア会議やスタッフ研修会等に参加し、意見交換をしている。また、札幌、旭川等の福祉施設を訪問し、サービスの質が向上するよう話し合いをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>休憩室があり交代で休憩を取っている。また、悩みや不安を聞き取るようにしたり親睦会等を開いたりしてストレスが溜まらないよう配慮している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>日頃から目的意識を持つよう話している。ユニットに行き勤務状況を把握したりアドバイスしている。努力や実績などにより研修に参加させ資格取得者には手当を支給、年末には勤務状況より臨時手当を支給する等して、向上心を持つようにしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>困っている事等をじっくりと聞くような態度で接し、少しでも安心して話せる相手であるという意識を持って頂けるように努めている。また、面談は1回だけではなく何度か訪問している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>1回だけの聞き取りではなく面談後も電話したり、何度か訪問したりして困っている事等を聞き取り、またはアドバイスしたりして信頼関係を築くようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談の主旨及び付随する内容を理解すると共に、他のサービスが必要な人には関係機関と連絡を取り合い対応している。また、札幌、旭川にある連携病院へも施設やサービスについて連絡を取り合うことができる。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>1回だけでなく何度か訪問したり、ホームへも見学に来てもらう等して馴染みの関係を築くようにしている。また、事前にホームへ何度か来て頂き食事を一緒に食べたり、雰囲気を感じてもらおう等の配慮もしている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者の残存能力を持続できるよう介護しつつ、利用者から教わりながら家事等をしていく姿勢で関わっている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の思いをくみ取り、また、家族がしていた介護を聞きケアの参考にしている。毎月の家族宛書類で日頃の様子を細かく分かるようにし、返信用紙を同封し家族からの意見等も書いて頂くようにしている。電話連絡もこまめにしている。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>毎月の家族宛書類や電話連絡で日頃の様子を伝えるだけでなく、行事への参加を呼びかけている。また、いつでも気軽に来訪して頂けるような雰囲気作りに努めている。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>生活暦を把握し、外出時に利用者が関わってきた場所を通ったり、馴染みの店へ買い物に行く、行きつけの理美容院へ行く等している。友人の来訪もあり良好な関係が続けられるよう雰囲気作りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の中に入り会話の橋渡しをしたり、食事、ゲーム等楽しい雰囲気になるよう関わっている。また、その時の体調等を観察しながら利用者同士が関わり合えるよう対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も入院者へは洗濯物の引き受けをしたり、花や記念品を届けたりして関わりが途切れないようにしている。また、手術や転移の相談等も家族から聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	第一に利用者の思いを尊重している。何気ないしぐさ、表情等からも思いを感じ取り聞くようにしている。意思伝達が不自由な利用者は特に家族の思いを尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談である程度は聞いているが、入居後に利用者及び家族との関わりの中からも詳細を聞くようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	現在の状態を観察しつつ、利用者が今出来る事、どういう方向性で関わればいいのか等を含めて把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者に日頃の関わりの中から聞いたり、家族からの手紙や来訪時に聞き取る事等で、利用者の思いや家族の思いを反映させ、関係者で話し合い作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期見直しの他に、入院、手術、状態の変化等で現状の計画に合わない事項が出た時には本人、家族の思いも取り入れて作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の日誌に記入し職員は内容を共有している。変化に合わせたケアを行いつつ状態によっては介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族が不安感を抱かないよう看護職員を配置し医療面でサポートしている。専門の認知症の医師と連携を取りながら、利用者の状態に合わせたケアをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防の協力により避難訓練、理美容院の来訪、近郊小学生や歌のボランティアの訪問等がある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居前に利用者が関わっていた相談員等と連携を取っている。また、状態によっては関係機関と連絡を取り対応している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	事あるごとに連絡を取り合っており、地域ケア会議に出席したり運営推進会議にも出席して頂く等している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に利用者や家族から納得が得られた医療機関をかかりつけ医として受診している。また、受診送迎は家族同意のうえで職員が対応しており、定期だけでなく緊急時受診の体制もしっかりしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医だけでなく、専門医との連絡も密にして対応している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置し、日頃の状態把握や変化時の対応等にも適切に指示を出し、医療機関への連絡等もしっかりしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時は利用者の生活情報提供書を提供し、医療機関と連絡を取り合いながら対応し家族へも連絡している。また、入院期間は毎日のように病院へ行き、その都度関係者に話を聞くようにしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医療連携体制加算を取っており入居時には、重度化した場合における対応にかかわる指針について家族へ説明し署名を頂いている。また、状態変化によっては医療機関や家族にも事前に話をしたり、連絡をこまめ取るようにしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者や家族の願いをくみ取り医療機関とも相談しながら、ホームとしてのケアを考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族や関係者と密に連絡を取り合い、転居先を事前に見せてもらう等の対応をしている。また、転居先の相談員へ利用者情報を事前に提供している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の人格を尊重するような声掛けや対応をし、管理者クラスも適宜、失礼な対応をしていないかチェックしている。利用者ファイルの記入場所も1ヶ所に決めている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一方的な声掛けはせず、表情や状態を見極めながら調理、掃除、おやつ選びなど、利用者が選択し自己決定できるような声掛けをしている。また、意思伝達が不自由な利用者からは、表情やしぐさ等を見て対応している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員のペースで過ごさせることなく、体調を見極めながら幾つかの選択肢を提供し、選んでもらうようにしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理美容へは利用者が希望する店に行っている。急な外出や突然の来客時にも困らないよう、身嗜みは日頃から整えるようにしている。外出時は衣服を着替えて頂き、女性利用者へは化粧を施している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>買い物、調理、食事、配膳、片付け等は利用者の体調を見ながら声掛けし、楽しいと思える雰囲気作りをしながら一緒にしている。また、嗜好を把握しているが体調不良等で食欲がない時には、代替品を調理し食べて頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気等により医師から止められたり、家族からの要望がある場合を除き、利用者用冷蔵庫にお茶、牛乳等を入れて、いつでも飲めるようにしている。また、数種類のおやつを目に付く場所に置いてある。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使って把握し、時間を見ながらトイレへの声掛けをしている。おむつ使用者へは使用数が1枚でも減らせるよう、職員同士で話し合いトイレへの声掛け時間を調整したり、表情やしぐさ等からも察知するようにしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯の決め事はなく、誰もがいつでも入浴できるよう毎朝浴槽に湯を入れてある。また、職員は介助するだけでなく、入浴する楽しさ等を話したり、利用者と良好な関係を築く場所になるような対応をしている。入浴剤を入れたり、毎月温泉に行ったりして気分転換も図っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調などを見ながら居室、フロアに関係なく休んでもらっている。日中を適度に活動して頂き夜間安眠出来るようケアしている。眠剤や睡眠導入剤を入居前から使用している利用者には、睡眠状態を医師に相談し、なるべく薬をしない方法を考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活暦を考慮できる事、したい事を促し掛けるように、塗り絵、買い物、調理、カラオケ、読書等日常の中で取り入れている。また、隣接するホームや外食に出掛ける等して気分転換をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の居室には小額のみ置き、ティッシュ、ポリドント等の必要品を一緒に買い物に出掛け、残高確認は職員がしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調等を考慮しながら、買い物、美容院、散歩等に出掛け希望に沿うよう心掛けている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	以前住んでいた地域へ出掛け思い出話を聞いたり、温泉や動物園にも出掛けている。また、家族にも出欠を募りイベントへ一緒に出掛けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話希望の利用者にはコードレス電話を使い居室から掛けてもらっている。家族からの手紙は開封せず直接渡しているが、家族から了解を取った利用者については職員が代読、代筆をし家族との関わりを大切にしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時には居心地の良い雰囲気を提供し、いつでも気軽に来て頂けるよう話している。また、来客用宿泊室があることも話している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない事は当たり前のことと全職員は認識したうえでケアしている。身体拘束廃止委員会もあり指導している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵は無く、鍵のある正面玄関と窓は夜のみ掛けて、日中は気軽に入出りできる状態にし閉塞感や不安感を与えないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中はさり気なく見守るように心掛け、夜は数時間毎に居室を見回っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>洗剤や包丁等は所定の場所に置き、夜は手の届かない場所に仕舞い、その扉に錠を付けて、危険な状態にならないようにしている。また、包丁には番号を付け本数を確認している。居室に果物ナイフを置いている方もいるが、何処にあるか毎日確認をしている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>常に予想される事を考えながらケアしていくことを、管理者から職員へ日頃から指導徹底している。また、職員は対応マニュアルを読み対応できるようにしている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防署からの協力により救急救命講習を受講している。また、対応マニュアルを読み急変時に備えている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署に来て頂き、昼間及び夜間と時間を想定したうえでの避難訓練を行い、利用者の誘導や消火器使用方法等を学んでいる。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時、家族来訪時等、予想されるリスクをその都度説明し、個々人の状態に合わせて未然に防ぐようなケアをしている。また、抑圧感を与えないよう細かな声掛けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	何気ない表情や動きの変化にも注意を払い、異変時にはバイタルチェックし職員間で話し合い気を付けて観察している。状態によっては看護師に連絡し指示を仰いだり受診対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報は個人ファイルに閉じ内容を把握している。服薬は飲み終わるまで見届けており、変化があれば受診し薬調整をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操、散歩、掃除等で少しでも体を動かすようケアしており、水分促しや繊維質の多い食材や乳製品を出すようにしている。排便チェックを行い出ない日が続くようなら下剤で調整している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きを促して見守りしたり、介助したりしている。磨いた後は磨き残し及び口腔内に異変がないかの確認をし清潔保持している。寝る前にはポリデント洗浄している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスを考えて調理しており、気付いた点があれば職員同士で意見を出し合い改善している。また、個々人の1日の食事量や水分量を把握しつつ、摂取量が少ない時は好みの物を出すようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を受けている。季節に応じてノロウイルスや食中毒対策もマニュアルに基づき実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○食材の管理</p> <p>79 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所周りは常に整理整頓している。まな板、布巾等は毎日消毒し、少なくとも週1回は冷蔵庫内の掃除と食材点検をしている。また、食材の賞味期限を書いた紙を冷蔵庫に貼り管理している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>			
<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>80 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関近くにプランターを置いたり、周囲に花を植えたりして親しみが持てる雰囲気になっている。</p>		
<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>81 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁等に季節に合わせた飾りを付けたり、日にちが分かるよう日めくりカレンダーを掛けたりしている。台所は居間から対面の場所にあり、調理中の匂いを感じ取ることができる。</p>		
<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>82 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テレビが見やすい場所にテーブル、ソファを、他にもソファや食卓用テーブル・椅子を配置し、誰が何処でくつろいでもいい空間作りをしている。また隣接して和室も設けている。</p>		
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>83 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に本人や家族には使い慣れた家具、置物等を持ち込んでもらうよう話している。また、希望者には仏壇の持ち込みも了解している。</p>		
<p>○換気・空調の配慮</p> <p>84 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>適度に換気をし温度調節に気を配ると共に、不快な匂い等がないかも確認するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりを設置しており、状態により歩行器や車椅子を使ってもらうなど移動面で配慮している。また、流し台や手洗い場は使いやすい高さになっている。</p>		
<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者の分かる事、分からない事を判断しつつ、分からない事でも幾つかの選択肢から思い出せるようなケアをしている。混乱する時には休んでもらったり、失敗しても自信を持てるような声掛けをしている。</p>		
<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物周囲の草取り、中庭のベンチでのんびりしたり、洗濯物を干したり、近くの東屋や公園まで散歩したりしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

1. 看護師を配置し医療連携体制加算をしており、また、診療科目に応じた看護職員を配置し、医療機関とも連携しつつ支援している。
2. 看取りについては家族の意向を聞き、医師と相談しながらできるだけ対応している。
3. ランフェスタ、祭り等の行事に参加し、また、家族にも出席を募り交流する機会を作っている。
4. 週に1回は外食、温泉等で外出するようにし、気分転換を図っている。
5. 退去しても洗濯物を引き受けたり、敬老会の祝い品を届ける等して関わりを続けている。また、家族とも交流接点を持っている。
6. 札幌、旭川等に連携病院、連携施設があり入院、入居に際し連携が取りやすい。